

新しい時代 新文化運動と哲学

6、儒仏仙、合一の道について

『格菴遺録』預言書<歌辞總論>の中には勝利者である正道靈様が現れる時、儒仏仙を含めて全ての宗教と哲学は一つになると下記のように預言している。

「仁富平沙桃源地で、東半島中牛腹洞が 青鶴神靈出入りするに 人王四維智異山が 十勝と暗示せり 十勝之地出現すれば、死未生初 当運である 入山修道念仏さま達 弥勒世尊 苦待すれど 釈迦之運去不來で、一度行って帰らず

三千之運釈迦預言 当末下生 弥勒仏を 萬疊山中仙人たちよ 山中滋味閑寂だが 魑魅魍魎虎狼盜賊 是亦弓不在山である。

斗牛在野勝地処には 弥勒仏が出現するに 儒仏仙が腐敗し、知る君子だれそれ 削髮爲僧侍主さま 世音菩薩は誰ぞや 侍主菩薩 不覺し 弥勒仏を知るや 阿弥陀仏仏道人たち 八万経巻 勉強し 極楽行くと言えども 行く道 希微し 西学入道 天堂人たち 天堂とは良いが 九万長天 遠くなり 一生涯には行けず

永歌時調儒士らは 五倫三綱正人道や 傲慢放恣猜忌嫉妬 陰邪情欲畜にならう 人道儒と地道仏が 日落之運負ったので 洛書夜運昏衝中に 彷徨霧中失格して 儒仏仙州各分派し 相勝相利言っているが

天堂か 極楽なのか 彼此一般皆行けず 平生修道十年工夫 南無阿弥

陀仏である。一歌辞總論の中から— 仁川と富川の間に位置している富平と素沙は桃源園の如き土地であるので、東半島の韓国の土地の中でも腹のような所である。青鶴神靈が出入りするに人王四維の智異山が十勝を暗示する。

十勝「勝利者」の地が出現すれば死亡は終わり、永生が始まる運が開ける。 入山修道で念仏唱える僧侶たち、弥勒世尊の出現を待っているが、釈迦の運は一度去って再び現れず、三千年の運だと釈迦の預言通り、終末に当たり 下生する弥勒仏を待って山中にいる仙人たちよ、山中が面白そうだが凡ゆる幽霊と泥棒がうごめき、山中には弓乙十勝正道靈はいないのだ。

天から北斗と共に降りた母牛のいる勝利の地には弥勒仏が出現せしに、儒・仏・仙が腐敗し、知る人誰ぞや、髪を削り坊主になった僧侶たち、観世音菩薩が誰ぞや、侍主菩薩も悟れず弥勒仏を知り得るや？

阿弥陀仏唱える仏道人、八萬大蔵経を学び極楽行くと口では言うが、行く道が希微であり、西学(基督教)に入信した天国人たち、天国とは聞こえは良いが、遙か遠い九万里のさきで一生涯ではみな行けず、

永歌時調を唱える儒士たちは五倫三綱が人間の正道ではあるが、僞謾放恣で猜み、嫉妬・陰邪・情欲があるのみだ。

人間の道である儒道と、地の道であ

る仏道の太陽が落ちる運を預かったから、河圖洛書の解釈にぶらさがって 暗い町を彷徨するように、年毎に霧中に道を失い、儒仏仙が各派に分かれ互いに勝った、互いに正しいと言い合っているが、天国が極楽かは彼此同じく みな行けず、一生涯修道した十年の努力が南無阿弥陀仏、無駄になってしまうのだ。

「訪道君子 修道人よ 地鷄龍のみ求めるか、寒心なんだ、世相事よ、死未生初 此時だ 陽來陰退 仙運には運だと釈迦の預言通り、終末に当たり 下生する弥勒仏を待って山中にいる仙人たちよ、山中が面白そうだが凡ゆる幽霊と泥棒がうごめき、山中には弓乙十勝正道霊はないのだ。 陽が来ると陰が消える神仙の運には、白宝座神の審判である。

このように鷄龍とは地を指しているのではなく、天の神人、正道靈が鄭氏姓で来るのではないから、字句だけで従つたらとんでもないところで泳ぐことになるから、その隠された意をよく吟味してみるように言われた。

「鄭僉知は 虚僉知だ 従風已去消え去り 天下諸聖 靈神合し 蓮花臺上 神明世界 正道経が来るとな 都是天運 不避で 生命路を 訪ねん 一末中運の中から—

鄭僉知は虚僉知である。鄭鑑録に多く登場する鄭道令は、鄭氏姓をもつ者を指しているのでないで風と共に消え去り、天下凡ての聖人神靈が相合

って蓮花臺上の最高の神として、正道靈が来るとな。この天運は避けられないので生命の道を探さん。

凡ての国の中に聳え起こった韓国のに地に 世界列邦から蝶のごとく歌い舞いつ押し寄せられよう 海中の豊富な財貨が戻って来る。

世のなかのあらゆる富貴と財物みな戻り あらゆる世界は韓国に屈服し、大小の船舶に積み込んで 神が御座ます尊い地を遠くで眺めつつ 世界万民を引率して戻らん 罪を許されし神の民が住む永遠なる家にだが、罪人は決して入れない家 天の意を棄逆した国は破滅されん 富貴と貧賤が逆になる日 勝利者、神のいます尊い聖山は 永生する祈祷文なしでは成すことなしそこは金銀宝貨、満ち溢れん。 一來貝預言 六十才 中から—

十二帝国 朝貢だね 萃城漢陽 松京まで 宝物倉庫一杯なり 一桃符神人編から—

世界列強が貢いだ宝貨 水原からソウルを経て開城まで 宝物倉庫つらならん

正道靈がいる韓国に世界各国のあらゆる万民たちが見上げながら、あらゆる富貴と財物を持って来るといふのだから、余りにも嬉しく胸熱くなる 預言である。

だが、神のいます尊い地は、罪人たちは入れない家といったので、われわれ各自が自ら " 自由律法 " を守ることに熱心でなければならぬ。

7、三神山下、牛鳴地とは？

許多衆生 多い四覽 弄弓歌を歌えよ 句中有意 弄弓歌を 男女老少 心覚えよ 貴くも わが兒よ 壽命福祿 祈祷せん 亜亞亜亞 亜亜よ 兩弓之弓 亜亜亞だ 達穹達穹だね 三人一タ 達穹だね

菴嘛 菴嘛 阿父菴嘛 天下第一 われらの菴嘛 道乳充脹 わが身が菴嘛なく 生きられん 理 道理 真道理よ 邪不犯正 正道だ

主仰 主仰 主仰時に 向天向地向主仰 指路 指路 直界指路 不晝晝夜 指路指路 作掌 作掌 作掌弓 血脈貫通 作掌弓に 立て 立て 道路に 立て 道路 道路 道路に 立て 一弄弓歌の中から— 許多衆生多くの人、弄弓歌を歌ってみよ。

字句の中に意があるに弄弓歌を男女老少に拘わらず心から悟れよ、可愛いわが兒、寿命福祿を祈祷しよう 仏よ 仏の 仏のよ(亜(ㄱ)ㄹ)は仏とも読み、亞は十勝之人、勝利者仏と同意に使う)二つの弓が合って仏亜である。

達穹 達穹天に達すれば 三人一タ(修)修道することが天に達する達穹だよ++++、オンマ オンマ 天地の父と母さん 天下第一わが靈のお母さん 道の乳で腹を満たすわが身が、母なくして如何で生きられん(母さんは肉的なものでなく靈的な母さん、つまり、われわれに道の乳を飲ませてくれ

る神、正道靈を指している。

なお、ここで分かることは、“三神山下の牛鳴地”とは、三神山の下に牛が鳴く地(オンマ オンマの声がするところ)即ち、オンマ(母)神のおられる地を意味する。)

道理、道理、真の道の理教は邪悪なものか犯せないのが真の道である。

主仰、主仰、主を仰ぎ見るとき、天に向かい、地に向かい、主に向い仰ぎ見ること。

指路、指路、正しい道を教え、昼夜を分かたず、掌のように正しい道を、作掌、作掌、血脈が通る作掌弓 立て、立て、立ち上がれ、道の路に立ち上がれ。

このように三神山の下で道の乳を呑み永生するところでは、勝利の神のことを靈的“オンマ(母の意)”といって 主を仰慕し見上げるところであり、手を打ちならし血液を貫通するところである。

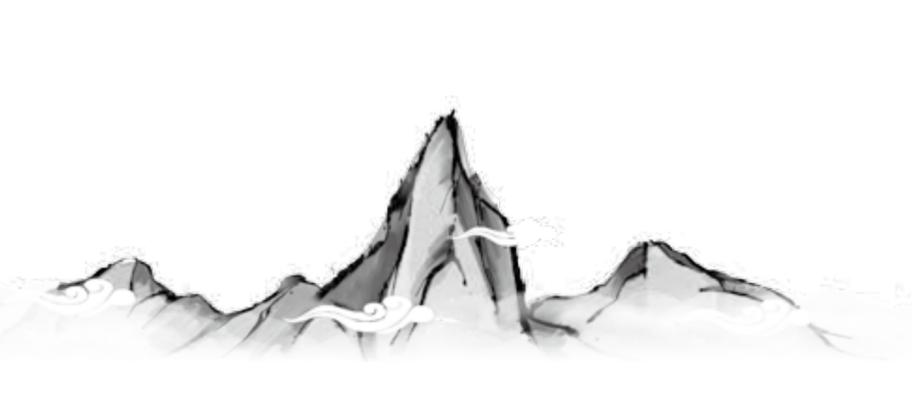
実際に勝利祭壇の道場ではこのような現象が起きている。

そこには弥勒であり、玉皇上帝であり、真人であり、勝利の神であり、正道靈になるかたが直接、勝利臺(壇上)の上に立ち、将来、万国を治め列国の王を屈服されるのだといわれる。

果たして、そこはどこなのか？そこでは、どういうことが起きているのか？次の預言を診ると疑問は無くなる。*

次の号に引き続き掲載
Subaru Kan / 新人類文化研究所長

목운(하나님)으로부터 도를 전해 받고(전도관) 금운 정도령이 감로해인으로 중생을 구제하느니라



육안으로는 속리지세(세속을 떠난 곳)를 헤랑하지 못하고 이해할 수 없으리라. 속리를 떠나지 말라. 덕을 쌓은 사람은 속리를 놓치지 않는다. 속리를 찾지 못하면 황금만능의 세상 속 도탄에 빠지는 것을 면치 못하리라. 어리석은 자가 어찌 분별 하리요. 속리산을 찾아간다. 지리산을 찾아간다. 계룡산을 찾아간다. 하는 것은 어리석은 일이나라. 입산하면 반드시 죽는다는 것을 깊이깊이 헤아려야 하느니라. 백전(白轉)은 입산(入山)을 뜻한다.

盡力追人追人其誰 진력추인추인가(수) 弓弓之朴也 궁궁지박야 朴固之郷村村瑞色 박고지향촌촌서색 未逢其人 미봉기인 難求生門 난구생문 生門何在 생문하재 白石泉井 백석천정 白石何在 백석하재 壽於鷄龍 심어계룡

鷄龍何在 계룡하재 非山非野 비산비아 非山非野何在 비산비아하재 二人橫三十二月緣 이인횡삼십이월록 小石之生枝林 소석지생지박 堯日大亭之下 요일대정지하 是亦石井 시역석정 欲飲者促生 욕음자촉생 所願成就 소원성취

있는 힘을 다하여 그 분을 따라가라. 그 분을 따라가라. 그 분은 누구인가? 궁공의 목인(朴泰善=木人)이다. 그 분은 진목화생변화인(眞木化生變化人) 즉 진짜 나무와 같은 성품이 되어 성령으로 거듭난 분이다. 그 분이 계신 곳은 어디나 상서로운 기운이 가득하다. 그 분을 만나지 못하면 살아날 방도를 얻기가 어려우리라. 생문(살아날 문)은 어디 있는가? 백석(소사)

草魚禾來之山 초어화래지산 天下名山老姑相望 천하명산노고상망 三神役活非山十勝 삼신역활비산십승 牛聲弓弓 우성궁궁 三豊白兩有人處 삼풍양백유인처

목인의 가지들은 위로는 하나님을 모시고 성령의 검과 진리의 깃발을 흠모하고 아래로는 말을 달리며 길운이 오는 것을 잘 살피도록 하여라. 궁공의 십승지를 깊이 탐색하듯 찾아서 그곳을 떠나지 마라. 그곳은 하나님의 기운이 왕성하게 서려있는 생명수의 뜻이 있는 광야인데 인류구원의 지상선국 건설을 뜻하는 계룡 장엄이 이루어지는 곳이야 새벽별이 비추는 땅이다. 새벽별은 정도령의 합자를 의미하고 조림은 조(曹)씨로 임한다는 뜻이다.

<p>당신을 영생의 세계로 안내하는 신문</p> <p>성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우</p> <p>승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다</p> <p>전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다</p>

<p>승리신문</p>	1990.3.3 등록번호 다 - 0029
<p>발행인 겸 편집인 김중만</p> <p>본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사랑함이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.</p>	
<p>경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 14679 홈페이지 www.victor.or.kr</p>	<p>광고 및 구독신청 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202</p>
<p>본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.</p>	